

## 基地政策

### 港のすみ分け実現に努力します

基地政策については「新返還6項目」を基調とした港のすみ分け実現に引き続き取り組んでいきます。

「前畑弾薬庫の移転・返還」については、「安全性の確保を最優先」「適時適切な説明会の開催」という2つの要望を付して、市の考えを国へ伝えています。一日も早く日米間の協議が整い、移設事業が推進されるよう、引き続きお願いしてまいります。

一方、移転により新たな負担をお願いすることになる関係団体等の皆さま方に対しては、そのお気持ちに報いるためにも、ご意見を十分に拝聴し、できる限りの負担軽減と地域振興に努めてまいります。

港のすみ分けの大きな要素である「崎辺地区の利活用」については、海上自衛隊として係留施設等の整備を推進されるよう要望しましたが、国の防衛大綱の見直しや、中期防衛力整備計画の策定の遅れなどにより、国としての考え方が示されていません。

佐世保港を活用して地域経済を発展させていくためには、「新返還6項目」の早期実現と「崎辺地区の利活用」は、ぜひとも実現させなければならない命題であり、引き続き努力してまいります。

## 石木ダム

### 再検証においても公益性・必要性を

「石木ダム建設事業」については、昨年11月に土地収用法に基づく事業認定庁(国土交通省)への申請を行い、大きな節目の時期を迎えています。

昨年末には、「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を図るため、前原国土交通大臣が「新たな基準によるダムの再検証を行ってほしい」と

の意向を示されました。この

対象には石木ダムも含まれていますが、今後とも利水における公益性、必要性などをしっかりと国に伝えていきたいと思っております。



## 子ども子育て

### 乳幼児医療制度の現物給付を10月から



子どもの心と体の健やかな成長と子育てにやさしいまちづくりを推進するため、子ども未来基金(仮称)を新たに創設するとともに、「次世代育成支援佐世保市行動計画」に基づき、子育て家庭への経済的支援の充実や子育て環境の整備を図ります。

特に乳幼児福祉医療制度については、子育て世帯の利便性の向上を図るため、本年10月から現物給付方式に移行します(下記参照)。

また東部子育て支援センター建設事業を推進するとともに、保育所の施設整備、放課後児童クラブの整備など、子どもを取り巻く環境を一層充実します。

**乳幼児福祉医療制度の現物給付方式への移行償還払い方式** 対象者が病院等で医療費を全額支払い、その後に自治体に助成金を請求する方式  
**現物給付方式** 病院等が医療費から助成相当額を差し引き、対象者は差し引き後の金額を支払う方式

## その他の施策

### 司書の大幅な増員(学校教育)

子どもの読書に親しむ機会の創出と読書環境の整備充実に努め、学校教育において豊かな感性と確かな学力を身に付けることができるように学校司書を大幅に増員させ、学校図書館の環境整備や読書指導の充実に努めます。

### 「総合教育センター」の開館(学校教育・生涯学習)

教育活動や生涯学習推進の拠点として多機能に活用できる施設の整備を図るため、本年秋に開館を予定している「総合教育センター(仮称)」(保立町)の建設を進めます。

### 環境に配慮したまちづくり(環境)

佐世保市地球温暖化対策地域推進計画に掲げる温室効果ガス排出量の削減目標を達成するため、地球温暖化問題への意識の向上、省エネルギー行動、自動車からの排出削減などの重点取り組みを中心に、住宅用太陽光発電設備への補助やエコドライブ教習の開催など市民に普及啓発を図ります。

※その他の施策については、本紙で随時お知らせします。

## 西九州自動車道

### 西九州自動車道の延伸と無料化

西九州自動車道が3月20日から相浦中里インターチェンジまで延伸し、佐世保中央インターから相浦中里インターまでは無料で供用されます。また武雄ジャンクションから佐世保中央インターまでの間については、社会実験と位置付け、6月ごろから平成22年度末まで無料化される予定です。これらにより本市全体の振興、交通渋滞の解消などが期待でき、県北経済圏としての本市の役割が今後ますます重要になっていくものと考えています。



佐世保中央インターチェンジ付近の遠景(平成22年1月26日撮影)

## 観光振興

### 「九十九島ビジターセンター」と「龍馬伝館」がオープン！佐世保スタイル観光の創出を

観光客の誘致促進については、一昨年から世界的な金融・経済危機が本市の観光産業にも大きな影響を与えており、国内外からの観光客数の減少が続いていることから、財団法人佐世保観光コンベンション協会等を中心とした観光PRやコンベンション等の誘致を積極的に推進します。

また円高が続き、本市を訪問する外国人観光客が大幅に減少していることから、特に東アジアを中心とした地域において、国や県の観光戦略などを視野に入れた各種誘致事業の展開を図ってまいります。

観光基盤の整備については、九十九島水族館「海きらら」に加え、「九十九島ビジターセンター」(仮称、環境省)が本年夏、西海パールシーリゾート内にオープン予定であり、本市の観光拠点として効果的な運営を図り、九十九島観光のさらなる魅力向上につなげてまいります。

亜熱帯動植物園については、国の天然記念物ツシマヤマメコノ飼育下繁殖事業に本格的に取り組み、平成23年の開園50周年に向け、さらに魅力ある動植物園づくりを目指し、ソフト・ハード両面の整備充実に努めてまいります。

そのほか、2月27日に「佐世保・ハウステンボス 龍馬伝館」がオープンしたハウステンボスをはじめとする観光施設との連携強化を図り、また本市特有の自然や歴史・文化、産業等を題材とした「させぼエコツーリズム」や「まちなか観光」の推進など、「佐世保スタイル観光の創出」に努めてまいります。



「海きらら」では、入館者数が想定より1年早く50万人を突破。2月22日に記念イベントが行われました。写真(中央)は50万人目となった早熊修一さん一家(諫早市)



「九十九島ビジターセンター」(仮称)のイメージ図



主催者、来賓などによる「龍馬伝館」のテープカット